

経営健全化計画の平成 27 年度実施状況

京 都 府 京 都 市
京都市高速鉄道事業特別会計

第 1 計画と具体的な措置の状況

平成 27 年度については、全庁を挙げた増客の取組や駅ナカビジネスの積極的展開、お客様サービスの向上などによる収入増加策とコスト削減策に加え、一般会計からの多額の補助金の繰り入れもあり、経常損益は計画に比べ大きく改善し、地下鉄開業年度以来の黒字を計上し、現金収支（償却前損益）は過去最大の 98 億円の黒字を計上した。その結果、財政健全化法に定める資金不足はなくなり、資金不足比率は経営健全化基準の 20%を下回った。

しかしながら、なお 309 億円の累積資金不足に加え、企業債等残高が 3,911 億円にもぼるなど、依然として厳しい経営状況に変わらない。

また、平成 29 年度には、一般会計補助金収入が大きく減少し、資金不足比率は再び 20%を上回ることが見込まれるため、一般会計からの経営健全化出資金の繰り入れなしで安定的に資金不足比率が 20%を下回る見通しが立つまで、経営健全化団体として、引き続き、計画に掲げる健全化の取組を推進する。

1 収入増加策

ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現に向け、地域や事業者などオール京都で公共交通の利用促進に取り組んでおり、「地下鉄 5 万人増客推進本部」の下、「京の七夕」、「京都・花灯路」及び「京都マラソン」などの沿線での観光・集客イベントの開催、岡崎地域の活性化や、山ノ内浄水場跡地を活用した京都学園大学京都太秦キャンパスの開校等、地下鉄駅周辺の賑わいあるまちづくりを推進した。

あわせて、地域、企業、大学等との連携による、公共交通利用促進や駅周辺の活性化につながる取組、烏丸線北山延伸 25 周年記念事業など増客に向けた様々な事業を実施したほか、終電の御利用が最も多い金曜日に終電を 30 分延長する「コトキン・ライナー」の運行開始など、一層の利便性向上に努めた。

駅ナカビジネスについては、「コトチカ御池」を増床し、新たに 4 店舗を開業したほか、今出川駅でのコンビニエンスストアのオープンや「コトチカ京都」増床に向けた実施設計の着手など、更なる増収と駅の賑わい創出を図った。

さらに、四条駅及び京都駅への可動式ホーム柵の設置、ICカード利用環境の整備やわかりやすい案内の充実等に取り組むとともに、お客様サービス全国一を目指し、心から満足いただける、より質の高いサービスの提供に努めた。

こうした取組の結果、1 日当たりのお客様数は、前年度から 1 万 3 千人増加し、5 万人増客目標まで 3 千人となる 37 万 2 千人となった。また、運輸収益と駅ナカビジネス収入等を合わせた営業収益は、計画を 11 億円上回る 269 億円となった。

2 コスト削減策

安全に十分留意したうえでの地下鉄設備の更新期間の延長や節電対策の実施など、徹底したコスト削減に努めた。

3 一般会計からの支援

計画に基づき、経営健全化対策出資金を繰り入れた。

第2 資金不足額解消の状況

(単位：億円)

区 分		計画初年度 の前年度	計画初年度 (平成21年度)	第二年度 (平成22年度)	第三年度 (平成23年度)	第四年度 (平成24年度)	第五年度 (平成25年度)
資金不足 解消額	当初計画 A		17	1	26	39	46
	解消実績額 B 又は 現在計画 C		46	86	40	60	16
	B-A 又は C-A		29	85	14	21	△30
資金不足額 (<small>解消可能資金 不足額控除後</small>)	計画		293	291	265	227	181
	実績額		310	264	178	138	78
資金不足額	計画		311	311	311	311	311
	実績額		310	310	309	309	309

区 分		第六年度 (平成26年度)	第七年度 (平成27年度)	第八年度 (平成28年度)	第九年度 (平成29年度)	第十年度 (平成30年度)
資金不足 解消額	当初計画 A	13	61	52	△12	67
	解消実績額 B 又は 現在計画 C	24	69	—	—	—
	B-A 又は C-A	11	8	—	—	—
資金不足額 (<small>解消可能資金 不足額控除後</small>)	計画	168	107	55	67	0
	実績額	38	0	—	—	—
資金不足額	計画	311	309	308	305	303
	実績額	309	309	—	—	—

注1 「当初計画 A」は、経営健全化計画の金額である。

注2 億円未満の端数処理により、合計等が一致しない箇所がある。

注3 資金不足解消額の平成25年度「実績額 B」が「当初計画 A」を下回ったのは、計画で見込んでいた5%相当の運賃改定を見送ったためである。

第3 資金不足比率の状況

(単位：%)

区 分	計画初年度 の前年度	計画初年度 (平成21年度)		第二年度 (平成22年度)		第三年度 (平成23年度)		第四年度 (平成24年度)	
	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値
資金不足比率	133.5	126.8	114.5	125.7	76.2	114.0	57.8	96.9	31.9

区 分	第五年度 (平成25年度)		第六年度 (平成26年度)		第七年度 (平成27年度)		第八年度 (平成28年度)	第九年度 (平成29年度)
	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	実績値	計画値	計画値
資金不足比率	73.6	24.4	66.6	14.8	41.5	—	20.7	24.7

区 分	第十年度 (平成30年度)	備 考
	計画値	
資金不足比率	—	平成27年度においては、お客様数を大幅に伸ばしたことや、コスト削減に努めたことなどにより、経常損益は黒字となり、資金不足比率は計画と比べて大きく改善した。